

データ×IT=? 新たなビジネスを創り出す源流とは  
ITビジネス創出支援事業費補助金 成果発表&公募説明会 実施報告(抄)

開催日: 2021年5月12日(水) 14:00~15:45

場所: Zoom(web会議サービス)を利用したウェビナー形式によるオンライン開催

共催: 一般財団法人さっぽろ産業振興財団、札幌市IoTイノベーション推進コンソーシアム 

後援: 札幌市、一般社団法人北海道IT推進協会

参加者: 35社52名

プログラムと内容概略(以下、敬称略)

## 1. 開式挨拶

(一財) さっぽろ産業振興財団 IT・クリエイティブ産業振興部 IT産業振興課長 佐々木 諭志

## 2. 講演① コロナ禍を振り返る~新たなビジネスを創り出す源流とは~



(一社) 北海道IT推進協会 会長 / エコモット(株) 代表取締役 入澤 拓也 氏

### ○新型コロナウイルスの影響によるITの需要の高まり

- ・テレワーク、ネットスーパー、フードデリバリー、オンライン申請などがスタンダードに。
- ・経営者の意識も変わり、「ヒト・カネ・モノ・IT」に。ITなくして経営はできない。
- ・ITは北海道において、食と観光と同様に外貨を稼げる主産業である。自社商品の道外販売やライセンスビジネスなどを新たな柱として伸ばしていきたい。

### ○コロナ禍で行ったこと①(自社商品のリバイバル)

#### <サーモグラフィーソリューション>

- ・ロードヒーティングの事業で使用していたサーモグラフィーの技術を応用し、非接触の体温計測システムを昨年3月にいち早く開発。
- ・計測精度に課題があったため、1か月後には新バージョンをリリース。顔認証 AI + 外気温に影響されにくい仕組みで、高い精度で計測可能に。

→新千歳空港の保安検査場に導入されることに。(現在は別の製品に置き換わっている)

#### <アイテル・お店の空席情報お知らせサービス>

- ・弟が営んでいる焼鳥屋の混雑状況を知りたい+リース期間が終了したドライブレコーダーが大量に返却される。  
→店内に取り付けたドライブレコーダーで撮影した映像にプライバシー保護を施し、空席情報を LINE でお知らせ。
- ・アイテル自体はコロナ禍以前に開発していたが、密を回避するソリューションとして注目され、市内 100 店舗ほどに導入されている。

#### <既存の製品や技術を、見せ方を変えてアプローチ>

- ・室内の CO2 測定システム→換気の見える化
- ・温湿度計→室内の乾燥状態を見える化することでウイルスの飛散を抑える  
→パツとしなかったソリューションに、注目を集めることができた。

#### ○コロナ禍で行ったこと②（地元 IT 業界としての社会貢献）

- ・新型コロナウイルスの影響で行き場を失ったカニや肉などの商品情報を公開していた、札幌商工会議所の特設サイトに大量のアクセスが集中し、サーバーがダウンした。  
→サーバーの負荷軽減、ページのリニューアルなどを IT 推進協会としてボランティアで支援
- ・タクシーを使ったフードデリバリーサイト「ToDoXi」を開発、タクシー業界や飲食店を支援

#### ○DX への取組

- ・DX に成功している会社の共通点として、①トップの執念（絶対にやる）、②専門の組織づくり（部署や待遇）、③内製化（ベンダーに頼らず自分たちで、現場ですぐ試す）
- ・ユーザー企業にデジタル人材が入ることで社内の課題や目標が明確になり、結果として Sler のパイが大きくなる。
- ・デジタルでビジネスモデルを変革するには、①課題抽出、②データ取得と分析、③データに基づき変革する

#### ○北海道 IT 推進協会の今後の展開

- ・道内の IT 企業が抱える一番の課題である「人材の確保・育成」に力を入れ、2030 年までに道内の IT 産業の規模を 4500 億円→1 兆円に、デジタル人材を 2 万 5 千人→5 万人にすることが目標

### 3. 成果発表① 寒冷地の介護事業者向け送迎巡回ルート最適化ソフトウェアの開発と実証

一般財団法人さっぽろ産業振興財団  
「ITビジネス創出支援事業費補助金」活用事例紹介

寒冷地の介護事業者向け送迎巡回ルート最適化ソフトウェアの開発と実証

2021年5月12日  
株式会社テクノフェイス  
TechnoFACE

The slide features a video call interface on the right side with four participants: a placeholder icon at the top, and three men in business attire in the video windows below. The background of the slide is white with black text and a blue and orange logo at the bottom.

(株)テクノフェイス 代表取締役 石田 崇 氏

### ○補助事業の概要

介護事業では、介護者の人材不足が深刻化する中、被介護者の介護施設への送迎および巡回介護の家庭訪問に出向く時間がかかること、コスト（送迎巡回車両の燃料費）の負担も問題となっており、特に冬季積雪期の被介護者の送迎巡回に時間がかかる負担が顕在化している。

被介護者が運転する車両の送迎巡回にかかる時間を短縮し、コスト負担を軽減するため、冬期間の積雪による渋滞や除排雪の情報などを加味した最適な送迎巡回のルートを導き出す「寒冷地の介護事業者向け送迎巡回ルート最適化ソフトウェア」を、補助金を活用して製作し、通所介護の現場で実証事業を行った。

製作にあたっては、協力会社である介護事業者の現場ニーズを最大限にヒアリングし、当社の事業領域である人工知能技術を活用することにより、被介護者および送迎巡回車の運転者、介護者の負担を軽減し、同時に送迎巡回記録の保存や既存の介護管理システムとの連携により、事務処理の軽減にも繋がるなどの成果を得た。

ビジネス化に向けては、送迎計画の IT 化がより求められている障害児向け放課後デイサービス等も視野に入れることや、より洗練された UX が必要なことなどの課題が見つかった。

今後は、初期開発を終えて出た課題を解決するために継続投資しつつ、製品の販売計画を遂行するための社内体制・協業体制を維持していきたい。

### ○本補助金を活用したことのメリット

- ・フルスクラッチの新規開発事業においても、初期投資のリスクを軽減できた。
- ・IT 開発では人件費が大半となるが、補助金を人件費に充てることができた。
- ・事業化も視野に入れた、メンターのブラッシュアップを受けることで考えを整理できた。

## 4. 成果発表② 車撮影アプリカートルの VR パノラマコンテンツ作成機能強化による

### 市場シェア拡大プロジェクト



(株)インフィニットループ 取締役 吉田 博紀 氏

### ○補助事業の概要

既存の自社製品であるカートル（自動車業界に特化した車撮影アプリ）のシェア拡大を目指し、VR パノラマコンテンツの更なる強化を行った。これまでの製品は、PC からのみ VR パノラマコンテンツへのタグ付けが行えるようになっていたが、本助成金を活用し開発を行なったことで「スマートフォンからタグ付けができる」ようになった。また、今まで

は車内パノラマコンテンツにのみタグ付けができたが、「車内・車外どちらもタグ付け可能」になった。

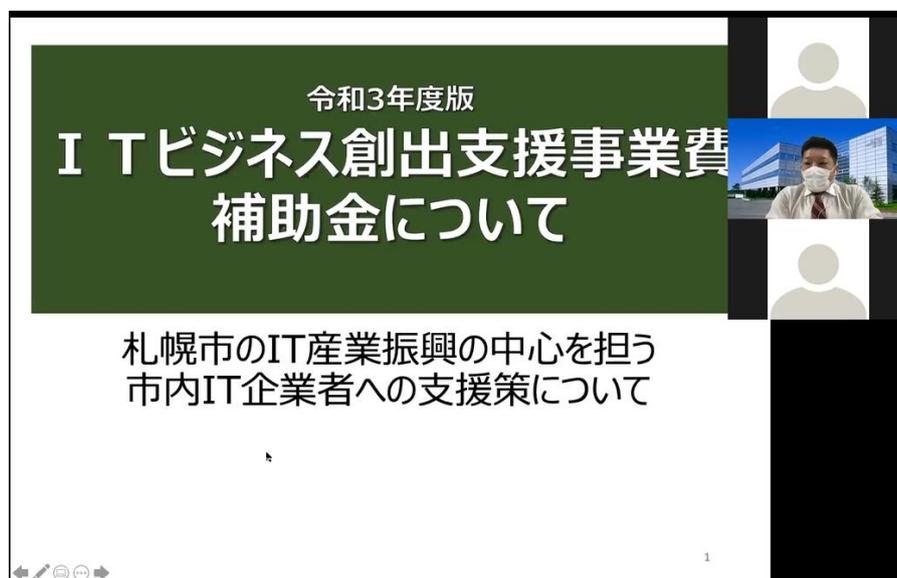
既に中古車販売店、輸出業者、オークション企業など、自動車関連の幅広い業種の方々に利用いただいているが、本機能を追加したことで、スマホのみでタグ付けできるのは当社のカートルのみとなり、他社製品に対して大きな差別化ができるようになった。

カートルを導入したユーザー企業は、撮影工数の削減だけではなく、商談や在庫の期間短縮のメリットが出ており、シェア拡大の指標である撮影台数は4倍増、売上は3.5倍増、サービスは国内でも有数の規模へ成長し、「車撮影アプリにおける市場シェア拡大」を順調に達成できている。

#### ○本補助金を活用したことのメリット

- ・機能開発による競合との差別化を図れた。
- ・営業顧問採用による販路拡大で、自社だけではリーチできない大手との商談を開始できた。
- ・各種書類の作成、事業途中での計画変更に際し、財団の担当スタッフが丁寧にサポートしてくれた。
- ・予算を割きづらい分野にも積極的に投資でき、営業成果を得ることができた。

## 5. 公募説明 ITビジネス創出事業費補助金について



(一財) さっぽろ産業振興財団 IT・クリエイティブ産業振興部 IT産業振興課長 佐々木 諭志

補助金の公募説明については、下記 URL からご確認ください。

[https://www.elecen.jp/wp/wp-content/uploads/2021/05/R3\\_IT\\_business\\_koubosetsumei.pdf](https://www.elecen.jp/wp/wp-content/uploads/2021/05/R3_IT_business_koubosetsumei.pdf)

今回のセミナーにご参加いただいた皆様の中には、新たなビジネスのアイデアを思い描いている方もいらっしゃると思います。そのアイデアを形にするために、本補助金を活用していただきたいと思います。皆様が、新たなビジネスイノベーションに向けた活動をより活発化していただくことを祈念申し上げます。

以上